

# 安全報告書 2017年



中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社

# 安全報告書 2017年

## 目次

1. はじめに.....	1
2. 安全確保に向けた基本方針.....	2
2-1 安全に対する会社の姿勢・理念.....	2
3. お客さまに対する安全対策.....	3
3-1 お客さまの安全.....	3
3-2 防災訓練.....	4
4. 安全管理体制.....	5
4-1 重点実施項目.....	5
4-2 安全管理体制.....	6
4-3 安全のための活動.....	7
5. 安全対策の実施状況.....	12
5-1 作業事故防止対策.....	12
5-2 交通事故防止対策.....	12
6. 安全に対する技術開発.....	13
6-1 技術開発の推進.....	13
6-2 新たな点検手法の確立.....	13
6-3 「はさまれん棒」の開発.....	13
7. 安全に対する取り組み.....	14
7-1 E-MAC 技術研修センター.....	14
7-2 安全啓発研修への参加.....	14
8. 事故等の実態とその対応.....	15
8-1 お客さまの関係する事故状況.....	15
8-2 労働災害の状況.....	15
8-3 交通事故の状況.....	17

## 1. はじめに

今年度もこの『安全報告書 2017年』を作成しましたので、ここに報告します。

当社は、NEXCO中日本のグループ会社として、NEXCO中日本名古屋支社、金沢支社が管理する高速道路等の点検・施設保守のプロフェッショナルとして、お客さまが安全・安心に高速道路等を利用していただけるように日々努めています。当社は、高速道路の安全性・信頼性を確保するために、道路を常に正常な状態に維持するとともに、お客さまの安全と生活を守るための技術を高めるよう努力しております。

常々、わたしの考えるエンジ名古屋の安全を最優先とする企業文化とは、社員一人ひとりが真に安全意識を身に付け、自然に「安全第一」で考え行動する習慣のことです。

社員一人ひとりの安全への思いと誓いを忘れることなく、お客さまの安全を守るため、高い意識と自覚をもって、業務を遂行するよう取り組んでいます。そしてこの姿勢を変えることなく継続していきます。

NEXCO中日本グループでは、昨年度からスタートした「高速道路リニューアルプロジェクト」(大規模更新・修繕事業)が、2年目を迎えます。本事業の実施にあたっては、ご利用されるお客さまの安全な通行を確保しながらとなりますので、より十分な安全確保が重要と考えております。エンジ名古屋においてもグループの一翼として、この事業に尽力いたします。

社内に目を向けますと「安全文化醸成塾」の開講も3ヶ年を数え、その内容について失敗事例を隠さず、次へ活かすよう発展させてきました。安全は、エンジ名古屋単独では成し得ません。多くの関係会社の方々のご協力を仰ぎ、一体となって取り組むことにより、安全を継続させていきます。今年度も多くの協力会社の方々からの「安全文化醸成塾」へのご参加をお待ちしています。

最後になりますが、エンジ名古屋は、これからも高速道路の点検・施設保守のプロフェッショナルとして、安全のために持てる力を惜しむことなく発揮し、セイフティ・ファーストで全ての行動や判断を行います。どうぞこの安全報告書について、みなさまのご意見ご要望をいただけましたら幸甚に存じます。



代表取締役社長  
太田 睦男

## 2. 安全確保に向けた基本方針

### 2-1 安全に対する会社の姿勢・理念

当社では経営理念に基づき、安全の確保が高速道路事業の最大の使命との認識のもとで日々業務を遂行しています。

業務の遂行に当たっては、「安全綱領」を制定し、全員が唱和することで社員の基本精神としています。

#### 《経営理念》

- 私たちは、セイフティ・ファースト（安全第一）で、全ての行動や判断を行います。
- 私たちは、常に変革と挑戦に努めながら、NEXCO 中日本グループの一員として、NEXCO 中日本の経営理念を共有し、毎日の保全点検業務を通して、お客様の安心で快適な高速道路のご利用に貢献します。
- 私たちは、技術力が会社の経営基盤と位置づけ、保全点検等の業務が効果的・効率的に実施できるよう、常に技術の向上と開発に努めます。

#### 《安全綱領》

私達は、お客様の尊い命を、お預かりしている責任を強く自覚し、すべての安全の確保こそ最大の使命であるとの決意のもと、安全綱領を定めます。



1. 安全は高速道路事業の最大の使命である。
2. 安全は、ルールへの遵守と厳正な執行に始まり、絶え間ない努力で築き上げる。
3. 安全の確保には、確認と連絡の徹底及び情報の共有が最も大切である。
4. 安全の確保のためには、職務や担当組織を超えて一致協力する。
5. 疑わしいときは、最も安全と判断する行動をとる。

中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社

## 3. お客さまに対する安全対策

### 3-1 お客さまの安全

当社では、お客さまが高速道路を安全・安心・快適にご利用いただくために、様々な点検・保守管理を行っています。

#### □ 高速道路における日常点検

お客さまに安全に安心して走行していただくため、定期的に本線等を走行し、路面やガードレール等の日常点検を実施しています。



#### □ ETC 保守点検、照明の灯具交換・清掃

お客さまに安全に安心して ETC レーンをご利用いただくため、ETC 設備の保守点検作業や、トンネル照明設備の灯具交換・清掃を実施しています。



#### □ 道路付属物の安全対策

お客さまに安全に安心して走行していただくため、「安全性向上 3 カ年計画」で実施した落下防止構造の二重の安全対策について、引き続き施工対象を拡げて実施しています。



## 3-2 防災訓練

南海トラフ地震、森本・富樫断層地震や津波、大雨、台風、降積雪などの自然災害により高速道路の安全を阻害される事象となった場合を想定した、お客さまの通行に対し、その影響を最小限にするため、各種訓練を実施しています。特に巨大地震で高速道路の路面に段差・亀裂が生じて、いち早く通行可能となるよう各地区の道路事務所において段差乗越え訓練を実施しました。また、被災箇所と本部との通信手段として、衛星携帯電話の通信確認訓練も実施しています。



防災訓練実施状況



段差乗越え訓練実施状況



衛星携帯電話通信訓練実施状況

## 4. 安全管理体制

### 4-1 重点実施項目

労災事故防止、交通事故防止を計画的にかつ重点的に推進するために、過去の災害事象を考慮して、年度ごとに重点実施項目を定めています。

当社は、2013年度に定めた、基本方針「安全がすべてに優先する」を基に、確実な労働災害防止に向けた安全意識のブラッシュアップおよび、業務遂行に不可欠な自動車運行における交通事故率低減をより促進するため、2016年度も「安全意識の向上」に向けて取り組みました。

#### 《2016年度目標》

- ① 労働災害発生防止 労働事故発生0件（休業4日以上）
- ② 交通事故防止 事故発生率2%（ランクAA）

#### 《目標達成度》

	項目	目標	結果
① 労働災害発生防止	労働事故発生件数(休業4日以上)	0件	1件
② 交通事故防止	事故発生率	2%	1.1%

※ 休業4日以上の労働災害1件は墜落災害

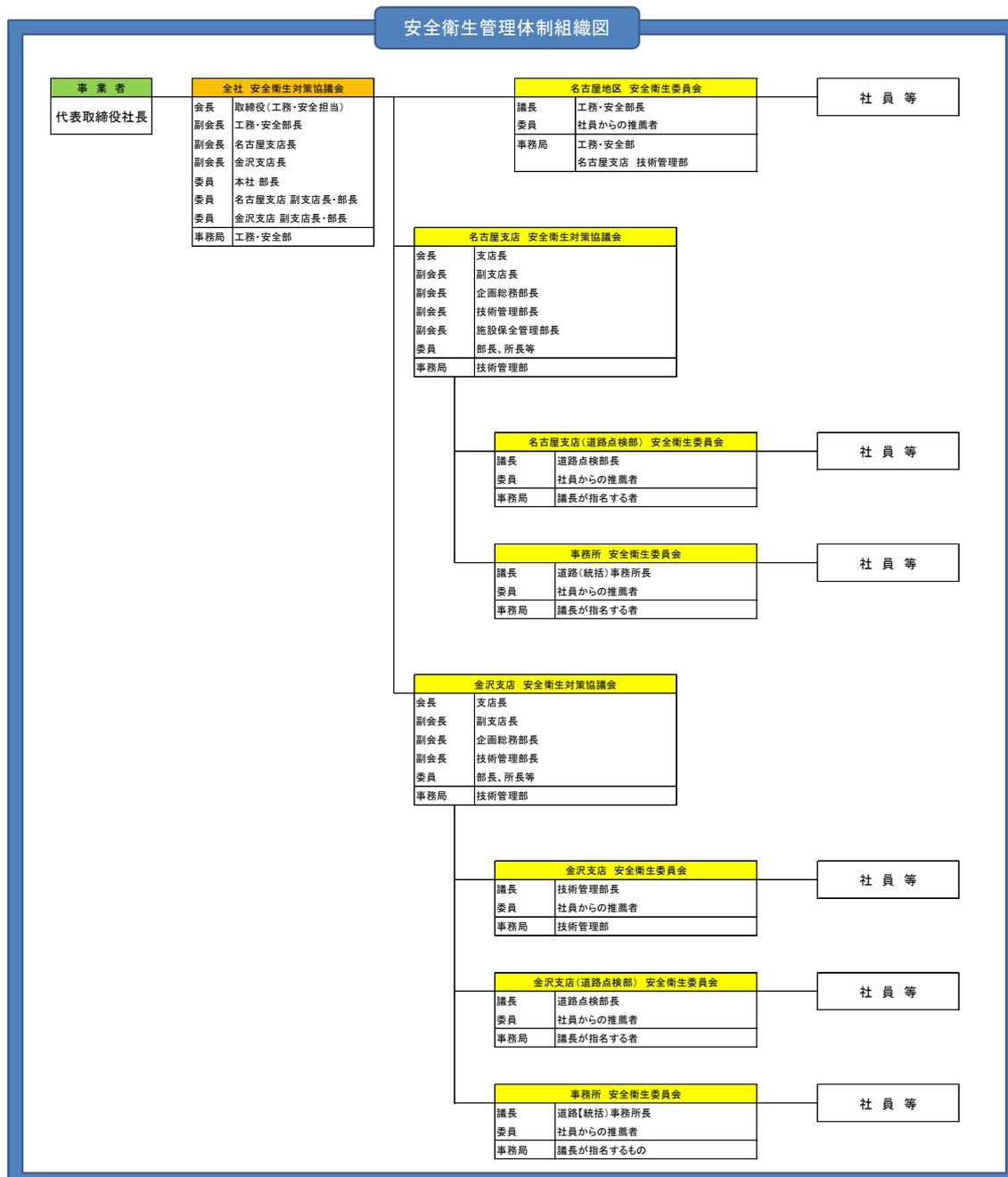
【参考】過去5年間の労働災害状況（ ）内の数字は休業4日以上の件数

	本社	名古屋支店	金沢支店	計
2012年度	0	3 (0)	1 (0)	4 (0)
2013年度	1 (0)	6 (4)	3 (0)	10 (0)
2014年度	0	3 (0)	1 (0)	4 (0)
2015年度	0	7 (1)	2 (0)	9 (1)
2016年度	0	4 (0)	3 (1)	7 (1)

※ 2016年度の休業4日以上の労働災害1件は墜落災害

## 4-2 安全管理体制

当社では、業務の安全を確保するために2011年9月に「安全衛生管理規程」を「労働安全衛生マネジメントシステムに関する指針」(平成18年3月10日付厚生労働省告示113号)に準拠して制定し、業務の安全確保や衛生管理に関する体制を確立しました。



### 4-3 安全のための活動

安全・安心で快適な高速道路を支える保全点検業務の遂行のため、道路交通安全マネジメントシステム（ISO39001）の認証、提案制度、現場安全確認および交通事故防止など様々な活動を行っています。

#### □ 道路交通安全マネジメントシステム（ISO39001）の認証

当社では、交通事故削減を目指し、交通事故削減の取り組みを“見える化”するため、道路交通安全マネジメントシステム（ISO39001）を導入し2016年3月18日に全社で認証取得しました。

### — 道路交通安全(RTS)方針 —

中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社（以下、『当社』）は、安全を何よりも優先し、セイフティ・ファースト（安全第一）で全ての行動や判断を行います。当社は、安全企業文化の向上及び全社員が安全について真剣に考え、高い安全意識を身に付け、行動に安全が自然に表れることを目指すため『安全綱領』を浸透させ、社員、協力社員を含め、安全意識の向上を図ります。また、この一環として以下の内容について実施します。

- ・長期のRTS目標として、道路交通衝突事故による死亡及び重大な負傷ゼロを目指し、中期的なRTS目標及びRTS詳細目標を定めて実施し、定期的な見直しを図ります。
- ・道路交通安全マネジメントシステムの要求項目に従い、手順を明確にしたシステムを構築し、継続的に改善していきます。
- ・交通事故等の発生原因を分析し、効果的な事故防止対策を実施していきます。
- ・飲酒運転撲滅のための対策を確実に実施していきます。
- ・この道路交通安全方針は、当社で働く又は当社のために働くすべての人のみならず、当社のホームページを通じて社外へ公開します。

2016年 4月 1日  
中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社  
代表取締役社長 **太田 睦男**

## ISO 39001 マネジメントシステム登録証

登録証番号：JQA-RT0046



登録事業者：  
中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社  
愛知県名古屋市中区錦一丁目8番11号 DNIビルディング

当機構は、上記事業者の道路交通安全マネジメントシステムを審査した結果、付属書に記載する範囲において、下記規格の要求事項に適合していることを証します。

ISO 39001:2012

登録日：2015年 3月 13日  
改訂日：2016年 3月 18日  
有効期限：2018年 3月 12日

本登録証の有効性は、登録標準と同等のレベルの上、確認することが可能です。



一般財団法人 日本品質保証機構  
東京都千代田区神田区丸の内1-2-5  
理事長 小林 憲明



本付属書は本証の一部のため、合わせてご覧ください。


14.07.07501146

## ISO 39001 付属書

登録証番号：JQA-RT0046 1 / 2



登録事業者：  
中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社

登録活動範囲：  
道路及び道路付属施設の建設・管理に関わる施工管理指導・安全管理指導、施工、計画・点検・調査・測量・設計業務、技術開発及び商品販売、並びに建築営繕

関連事業所：

- ・E-MAC 技術研修センター  
岐阜県各務原市鞠田各務原町7丁目71番地10
- ・名古屋支店  
愛知県名古屋市中区錦一丁目8番11号 DNIビルディング
- ・名古屋支店 道路点検部  
愛知県一宮市丹陽町九日市場字竹の家204
- ・名古屋支店 道路技術部 (品質技術課)  
愛知県名古屋市中区錦一丁目8番11号
- ・金沢支店  
石川県金沢市駅西本町三丁目7番1号
- ・金沢支店 道路点検部  
石川県金沢市神野町東202
- ・金沢支店 道路技術部 (試験研究室)  
石川県金沢市駅西本町二丁目8番11号  
【活動範囲：同上】
- ・一宮統括事務所  
愛知県一宮市丹陽町九日市場字竹の家204
- ・多治良道路事務所  
岐阜県多治良市白山町3-6-1
- ・豊田道路事務所  
愛知県豊田市渡刈町下種目146

登録日：2015年 3月 13日  
改訂日：2016年 3月 18日  
有効期限：2018年 3月 12日

本登録証の有効性は、登録標準と同等のレベルの上、確認することが可能です。



一般財団法人 日本品質保証機構  
東京都千代田区神田区丸の内1-2-5  
理事長 小林 憲明



本付属書は本証の一部のため、合わせてご覧ください。


14.07.07501146

## ISO 39001 付属書

登録証番号：JQA-RT0046 2 / 2



登録事業者：  
中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社  
愛知県名古屋市中区錦一丁目8番11号 DNIビルディング

登録活動範囲：  
道路及び道路付属施設の建設・管理に関わる施工管理、安全管理、施設工事の施工、計画・点検・調査・測量・設計業務、技術開発及び商品販売、建築営繕

関連事業所：

- ・名古屋道路事務所  
愛知県名古屋市中区錦一丁目8番11号
- ・飯田道路事務所  
長野県飯田市育良町1-2-1-1
- ・羽島道路事務所  
岐阜県羽島市舟橋町3-2-7
- ・彦根道路事務所  
滋賀県彦根市原町714-1
- ・岐阜道路事務所  
岐阜県羽島郡城南町平島2-221-2
- ・高山道路事務所  
岐阜県高山市清見町夏庭字宮ノ脇平476-1
- ・桑名道路事務所  
三重県桑名市大字蓮花寺字岩坂1620番地1
- ・津道路事務所  
三重県津市久居神町2670-2
- ・金沢統括事務所  
石川県金沢市神野町東202
- ・富山道路事務所  
富山県富山市黒崎439
- ・金沢道路事務所  
石川県金沢市神野町東202
- ・福井道路事務所  
福井県福井市根野町12字9-2
- ・敦賀道路事務所  
福井県敦賀市井川17号字稲荷森8-1  
【活動範囲：道路及び道路付属施設の建設・管理に関わる施工管理、安全管理、施設工事の施工、計画・点検・調査・測量・設計業務、技術開発及び商品販売、建築営繕】

登録日：2015年 3月 13日  
改訂日：2016年 3月 18日  
有効期限：2018年 3月 12日

本登録証の有効性は、登録標準と同等のレベルの上、確認することが可能です。



一般財団法人 日本品質保証機構  
東京都千代田区神田区丸の内1-2-5  
理事長 小林 憲明



本付属書は本証の一部のため、合わせてご覧ください。


14.07.07501146

### 道路交通安全マネジメントシステム (ISO39001) 登録証

## □ リスクリダクション制度

当社では、従前から実施しているヒヤリ・ハット事象の投稿制度を発展させ、「①気付きの目、②安全意識の持続と向上、③安全提案による、会社への貢献意識」を共有し、身近な危険から高速道路に係わるまでを取扱える仕組み(図 3-2-1)としました。また、投稿された内容で重要な項目および件数の多い項目については、全社で対応しています。

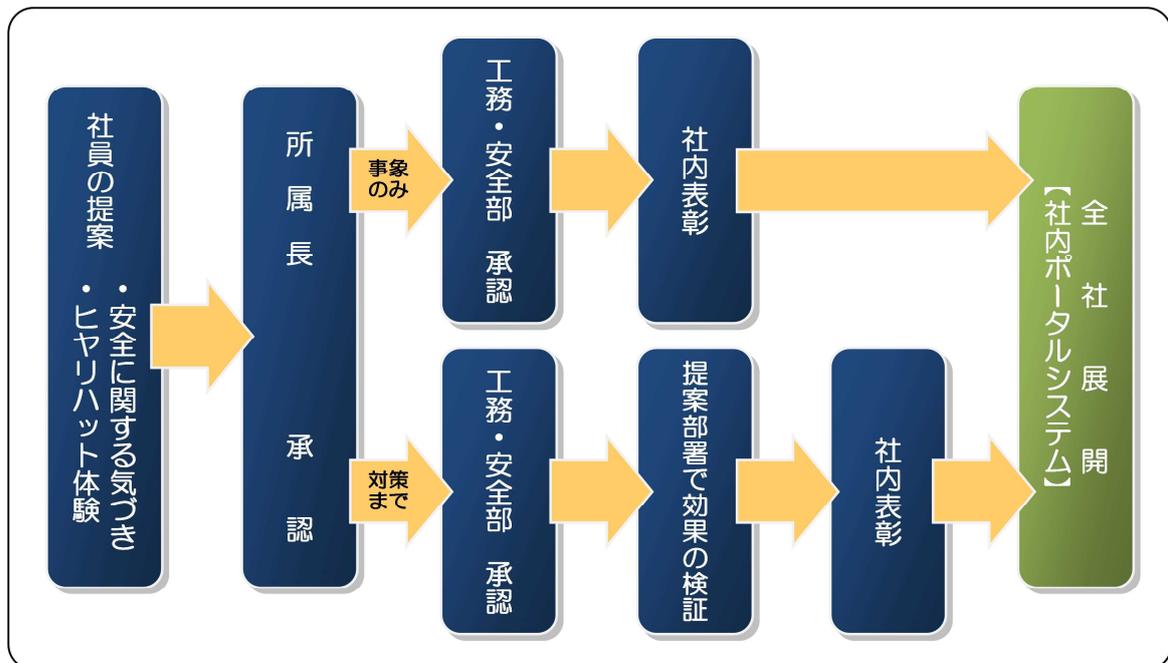


図 3-2-1 リスクリダクション制度の実施の流れ

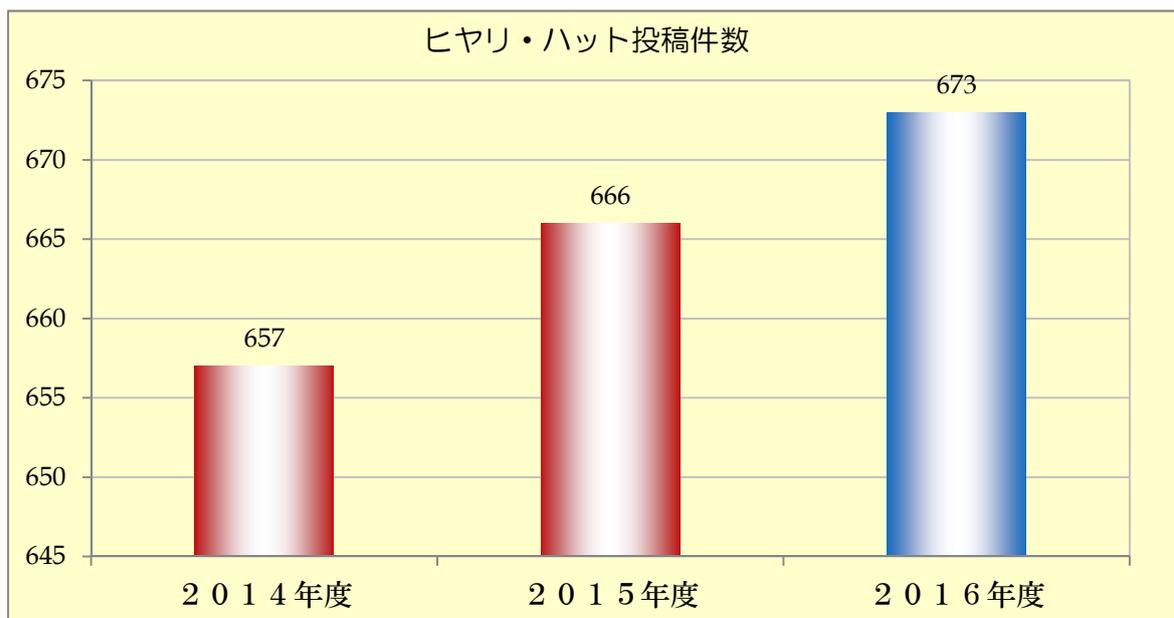


図 3-2-2 ヒヤリ・ハット投稿件数

## □ 安全パトロール

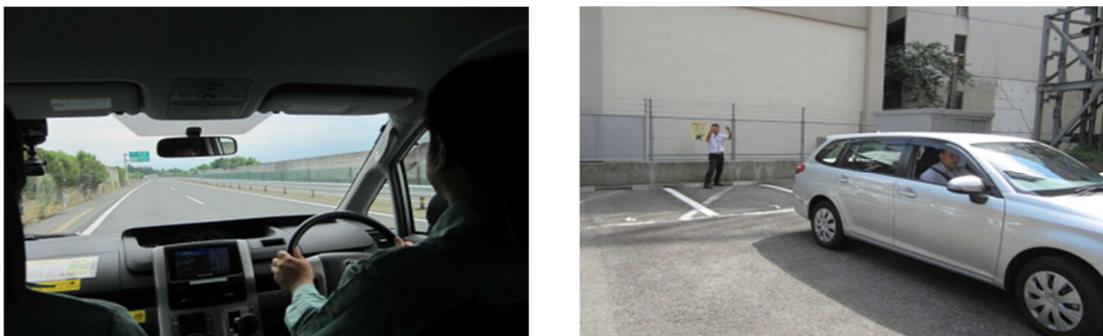
夜間工事および集中工事を中心に現場作業の安全を確認するため、本社や支店、現場の社員と合同で安全パトロールを実施しています。また、安全パトロールの結果から、問題点や課題を抽出し、対応策を速やかに実施させることで安全確保に向けた現場作りを行っています。



安全パトロール実施状況

## □ 安全運転同乗指導

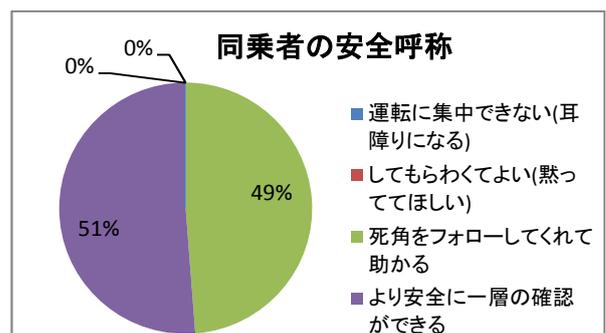
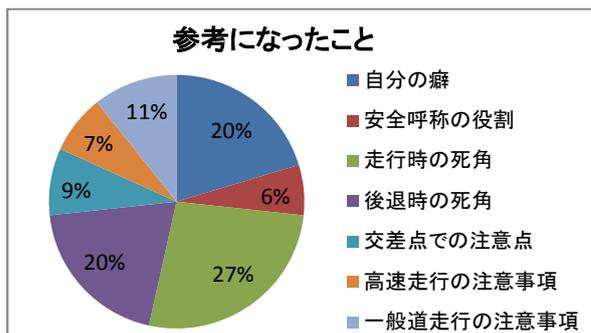
交通警察経験者による車両の同乗指導を全社で実施しました。社員の運転の様子を同乗して確認することで、個人の運転特性を分析し、改善点を指摘し指導することにより安全運転の意識の向上、運転技能の向上を図りました。



安全運転同乗指導実施状況

	本 社	名古屋支店	金沢支店	計
実施人数	4 名	56 名	24 名	84 名

2016 年度 安全運転指導



□ ドライブレコーダーによる交通事故分析

全車両に搭載したドライブレコーダー記録から事故発生状況の確認や原因分析を実施しています。事故映像を分析し問題や課題を、交通安全講話で周知することにより事故防止の意識向上に活かしています。



事故状況

□ 交通安全講話

交通安全意識向上のため、交通警察経験者による交通安全講話を実施しています。交通安全講話では、事故事例や事故の傾向、ドライブレコーダーの事故映像を分析して得られた問題や課題の周知、危険予知などを通じて、交通事故削減へ向けた取り組みを実施しています。



交通安全講話受講状況

所 属	計 画	実 績	対 象	備 考
本社	年 2 回	4 回	全社員	人数が多いため6回実施
名古屋支店		6 回		
11 事務所		22 回		
金沢支店		2 回		
5 事務所		10 回		

2016 年度 安全講話

## 5. 安全対策の実施状況

### 5-1 作業事故防止対策

#### □ 高所作業時の事故防止対策

高所作業車を使用した点検、作業時の構造物片の落下、または工具の落下によるお客さまへの被害が懸念されます。それらを防止するため、高所作業車の作業台はいかなる場合も落下防止ネットを設置し作業を実施しています。併せて作業時のはさみ込み防止ポールを作業台に設置しています。

また、高所作業車昇降時に作業員の転落を防ぐために、高所作業のステップに滑り止めスプレーを塗布するなどの対策を実施しています。



落下防止ネットとはさみ込み防止ポール



ステップの滑り止め処置

### 5-2 交通事故防止対策

#### □ 車両後退時の誘導の徹底

事故の形態として、車両後退時の事故が多く発生しています。その対策として全車両へバックモニターの設置、同乗者がいる場合は、車両後退時に必ず助手席から降車し、後方の誘導を行うことを徹底しています。

#### □ 車両運行前の体調確認とアルコールチェック

車両を運行する前には、呼気のアルコール確認に合わせ、免許証の有効期限、体調管理および運行経路の確認を実施しています。運転者は「安全運転管理者」または「副安全運転管理者」に対し、実施状況を報告し承認を得て運転しています。



アルコール検知器



アルコール検知器使用状況

## 6. 安全に対する技術開発

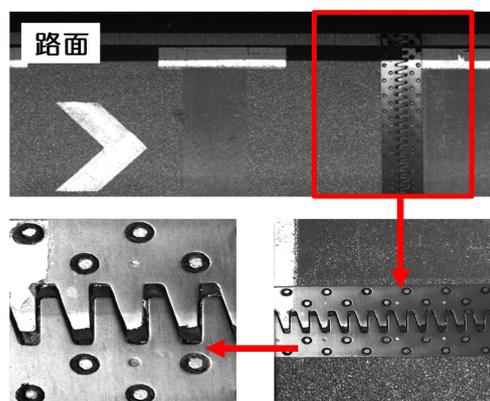
### 6-1 技術開発の推進

高速道路は、土木構造物、電気・通信設備、建築など様々な技術によって構築されています。しかし、技術は日進月歩であり、よりお客さまに安全・安心、快適な道路空間を提供するための、積極的な技術開発や技術力の強化に取り組む必要があります。

そこで、お客さまへ安全・安心・快適な道路空間を提供するために定期的に技術開発委員会を開催し、新技術・新工法を積極的に検討しています。

### 6-2 新たな点検手法の確立

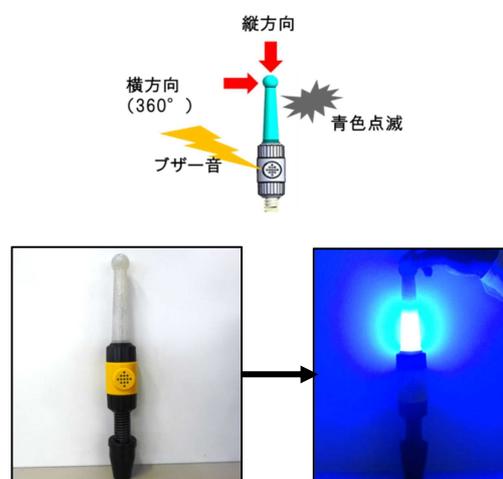
舗装のひび割れや段差だけではなく、伸縮装置やガードレール等の付属物を高速走行で撮影し、画像により舗装の状態や、付属物等の経年変化を確認可能な新たな点検手法を確立しました。降車出来ない狭小な路肩部をスリット撮影方式の高速路面点検車で定期的に画像を撮影し、舗装の状態変化や付属物等の経年変化を点検記録とすることが出来る新たな手法の取り組みを進めています。これにより、日常点検時における危険な路上作業が削減出来、加えて事故削減を目指しています。



### 6-3 「はさまれん棒」の開発

高所作業車を使用した作業中のはさまれ事故防止に警報装置を開発しました。作業台の4つのコーナーに「はさまれん棒」を設置し、作業者より先に危険箇所へ接触させることにより音と光で注意を促す接触センサーを採用しています。

検知バーに力が加わるとバーが青色に点滅し、同時にブザー音が鳴る仕組みになっており「はさまれん棒」を使用することにより、作業中のはさまれ事故を防止します。



## 7. 安全に対する取り組み

### 7-1 E-MAC 技術研修センター

E-MAC 技術研修センターは、「社員の技術力向上や専門技術の伝承」、「全社員が安全への感性を高め、常に安全意識を持つ」、「危険の回避と異常個所を発見する力を養う」ことを目的として、高速道路に関する様々な訓練を行っております。



### 7-2 安全啓発研修への参加

当社では、全社員が笹子トンネル事故で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、事故に関する記録・資料等から点検・維持管理の重要性を学び、事故を決して忘れることなく、安全を最優先する一人ひとりの意識の徹底を図るため、「NEXCO 中日本安全啓発室（川崎市）」での「安全啓発研修」へ参加しました。（2016年度 236名）



安全啓発室での研修の様子

## 8. 事故等の実態とその対応

### 8-1 お客さまの関係する事故状況

2016年度の業務中に発生したお客さまに影響する事故は8件と、前年度と比較し11件減少しました。

- 主な事故内容
- ・紙ファイルを車両の屋根に置いたことを忘れ、回収することなく車両を発車させ紙ファイルを路肩部、中央分離帯部に飛散
  - ・パーキング敷地内で、法面をバックホーで掘削中、平爪の角で排水管をひっかけ排水管を損傷させ、PA 給水事故を発生
  - ・交通事故（自責・他責）による、お客さま車両との衝突（6件）

ご迷惑をお掛けしたことを深くお詫びするとともに、事故の再発防止の取り組みとして、事故発生時には、当該部署で緊急安全大会を開催し再発防止対策の周知徹底を実施しています。

### 8-2 労働災害の状況

2016年度に発生した労災事故は7件（図7-2）で、事故の内容は主に作業中発生事故でした。

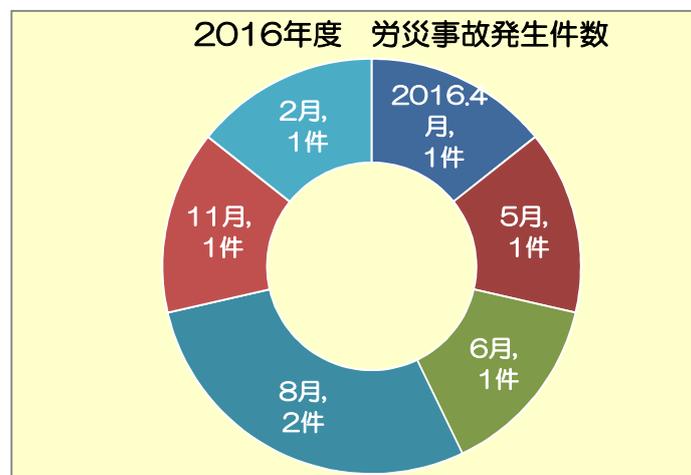


図7-2 労働災害事故発生状況

- 主な事故内容
- ・車両に荷物の積み込み時、間隔を誤り自己の額をリアゲートにあて負傷
  - ・掛金ハンドルをはずしたあおり部が自重で開き、それに安全带フックを固定していたため車上から落下し負傷
  - ・ガードレールを乗り越えようとした際、体制を崩し、ガードレール内側に倒れこみ、右足を負傷
  - ・キロポスト表示看板に右上腕の衣服が引っかかっていることを気づかないまま降りたため、右上腕内側が裂傷

## 《2016年度 労働災害事例》

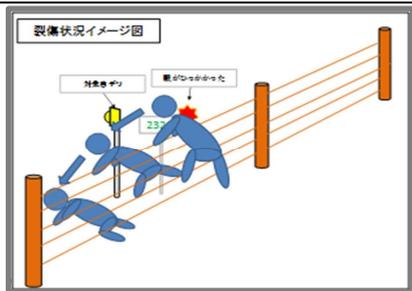
### ① 墜落・転落による事故事例

発生日	時間	路線名	原因
6月16日	22:15頃	舞鶴若狭自動車道	本人の不注意
概要			
矢印板を回収するため番線を外そうとした際、掛金ハンドルをはずしたあおり部が自重で開き、それに安全帯フックを固定していたため車上から落下し負傷			
再発防止策			
①基本を遵守 ②無理な体制での作業等はない ③「カチッ」と音がするくらいに確実な作業の実施			



### ② 危険軽視・悪習慣による事故事例

発生日	時間	路線名	原因
11月17日	10:28頃	中央道	本人の不注意
概要			
キロポスト表示看板付近に設置されている自発光デリネータ灯具交換のため、作業員が車道からのり面側にガードロープを乗り越える際、キロポスト表示看板に右上腕の衣服が引っかかって落ちたことを気づかないまま降りたため、右上腕内側が裂傷			
再発防止策			
①注意事項の安全教育の実施 ②マンネリ感、危険軽視の排除			



事故への対応として、事故情報を社内掲示板で社員に共有することにより、各部署で開催している安全衛生委員会で、自部署で発生した場合を想定し、予防処置を実践しています。

### 8-3 交通事故の状況

通勤時を含む業務で発生した交通事故は、2016年度内で18件（図7-3）あり、事故発生率は1.1%でした。

交通事故は大幅に減少したが、前方不注視の事故や、停止措置不適切による事故が多く発生し、また人身事故が増えています。（事故発生率：総保有台数（社有車）当たりの事故発生件数）

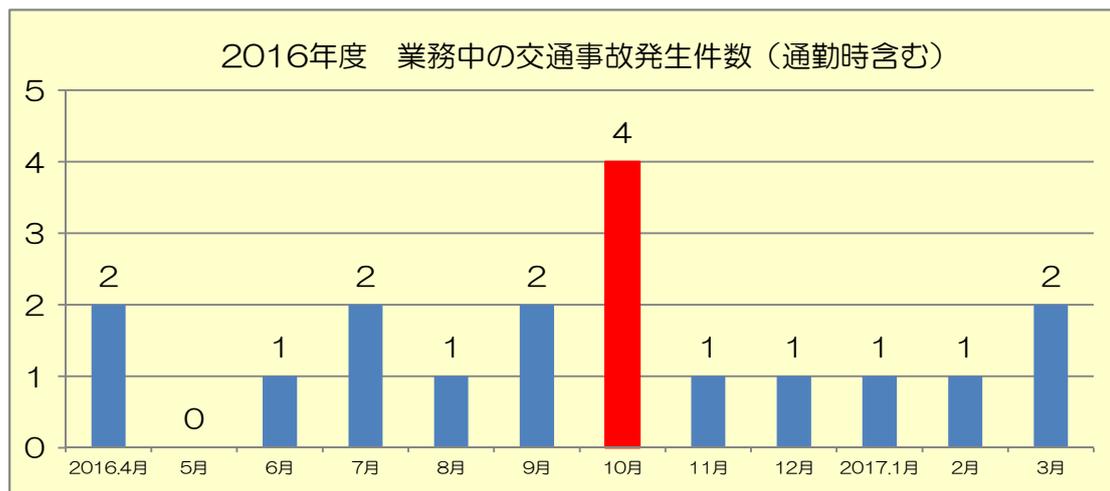
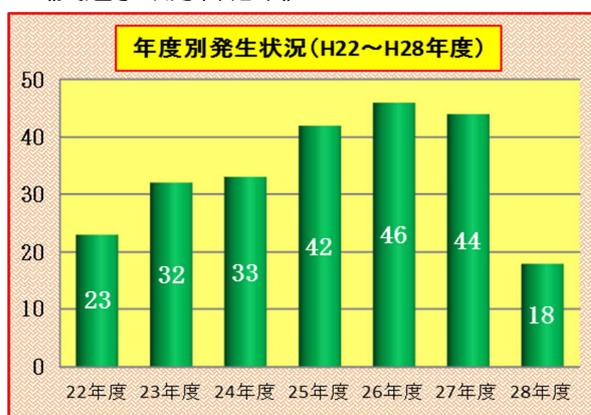


図 7-3 交通事故発生件数

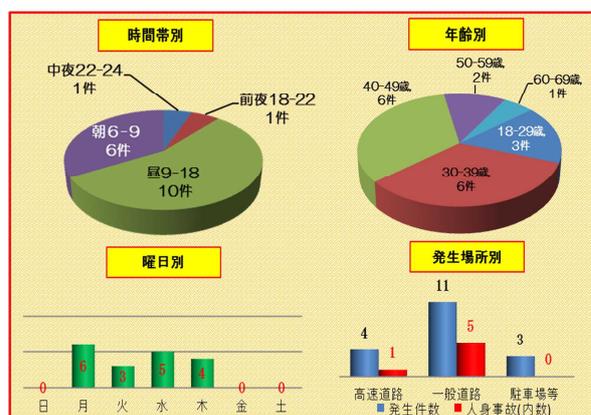
#### 《交通事故分析結果》



	28年度			27年度			増減(前年度比)		
	人身	物損	計	人身	物損	計	人身	物損	計
交通事故	6	12	18	1	43	44	5	-31	-26

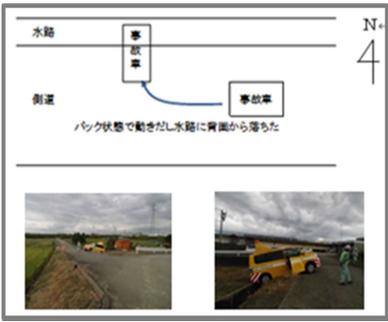
  

	28年度			27年度			増減(前年度比)		
	社員	社員以外	計	社員	社員以外	計	社員	社員以外	計
自責	8	5	13	15	8	23	-7	-3	-10
他責	3	2	5	13	8	21	-10	-6	-16
合計	11	7	18	28	16	44	-17	-9	-26



## 《2016年度 交通事故事例》

### ① 停車時の事故

発生日	時間	路線名	原因	略図
10月25日	15:10	一般道	停止措置義務違反	
概要				
道路標識点検の実施のため、側道に車を止め降車したがギアがニュートラルのままサイドブレーキが甘かったため、坂の勾配で車が動き出し、側道の水路に背面から落ちたもの。				
再発防止策				
確実な停止措置、場所の選定、確実な停止措置の実行				

### ② 後退時の事故

発生日	時間	路線名	原因	略図
11月22日	11:30	伊勢自動車道	後方安全不確認 誘導ミス	
概要				
バックヤード駐車場で、事務所車両<黄色>がバックの際に、駐車していたテナント従業員(車内にて休憩中)の車両(軽自動車)に接触し、ドアミラーを損傷させたもの 誘導者<新入社員>				
再発防止策				
後退時の死角、車両感覚を認識し、的確な場所と方法による誘導				

事故への対応として、「安全運転管理者」のほか、各部署の責任者を「副安全運転管理者」に選任し、運転前の体調確認および運行経路の確認を部署ごとに実施しています。

また、事故者を優先的に安全運転同乗指導を実施し、運転特性の把握・指導を行っています。

---

中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社